

4 環境コミュニケーション

4-1 県民のみなさんとのコミュニケーション

①地域ごみゼロ推進交流会、ごみゼロセミナーの開催(環境森林部ごみゼロ推進室)

〔地域ごみゼロ推進交流会〕

ごみ減量化に向けた地域での取組を促進するため、県民やNPO団体のみなさんを対象に、地域での取組事例の発表や意見交換など参加者同士の情報交流、先進事例の研修、有識者による講演会などを県内7地域で開催しました。

〔ごみゼロ県民セミナー〕

～あなたの行動を大きなごみ減量につなげませんか～

県民のみなさんをはじめ、NPO・事業者・市町の方が、ごみ減量について考え、行動を始めるきっかけとして、平成21年11月21日(土)にホテルグリーンパーク津(津市)で開催しました。

一般公募した「ごみゼロソング」の歌詞の最優秀者表彰及びソングの披露と、三重テレビ気象キャスター多森成子氏から、地球温暖化と環境問題の関係や、私たちができる身近なエコ活動について講演いただきました。

〔ごみゼロ事業者・県民セミナー〕

～環境意識の高まりを経営にどう取り入れていくか～

平成22年2月15日(月)に、じばさん三重(四日市市)で開催した事業者・県民セミナーでは、LOHAS*に基づき環境に配慮する消費者や事業者の活動について、一般社団法人LBA共同代表大和田順子氏に講演いただいたほか、CO₂排出削減の「見える化」や生ごみリサイクルを取り入れることにより環境に貢献する事業者から、取組を紹介していただきました。

三重県ごみゼロホームページ URL <http://www.eco.pref.mie.jp/gomizero/>



「ごみゼロソング」の披露



大和田順子氏による講演

②連携で進める「キッズISO14000プログラム」(環境森林部地球温暖化対策室)

平成17年6月に策定した「三重県環境保全活動・環境教育基本方針」を踏まえ、地域での環境教育を具体的に展開していくため、三重県では平成18年度から、小学校児童が家庭での省エネ活動やごみの削減に取り組むことで環境への意識を高める環境教育プログラム「キッズISO14000プログラム」を、学校、企業、NPO、行政の連携により実施しています。

平成21年度は、県内企業12社から協力を得て、13市町26小学校で927名の児童がこのプログラムに取り組みました。



協力企業による
子どもたちへの説明

③サステナブル経営セミナーの開催(環境森林部地球温暖化対策室)

低炭素社会を構築するために、企業の先進的な環境経営や、企業、地域などあらゆる主体が連携した効果的な地球温暖化対策について、「低炭素社会に向けて企業が目指すべき環境経営」をテーマとしたパネルディスカッションを企業経営者及び企業関係者を対象に実施しました。



パネルディスカッション

*LOHAS(ロハス)とは、健康と環境に配慮したライフスタイルのことです。

4-2 三重大学のみなさんとの意見交換

平成22年10月8日、三重大学において、三重県の環境報告書に関する意見交換会を実施しました。

主な意見とそれに対するコメント

三重大学からの意見

組織図がどうなっているか分かれば、内容も理解しやすい。

目標の達成状況、未達成の要因、具体的な取り組み等に分かりにくいところがある。

キャラクターのコメントのなかに、分かりにくいものがある。

黒い字が多くてメリハリがなく、読みにくい部分もある。

三重県からのコメント

EMS の枠組みを説明する箇所に参照ページを付記します。

より分かりやすくなるように、出来る限り対応します。

より分かりやすく見直します。

各記事の表題の強調、彩色などを、より読みやすく見直します。



意見交換会参加者

三重大学 (13名)	総括環境責任者(1名)、教務チーム(1名)、生物資源学部(1名)、施設部(2名)、学務部(1名)、学術情報部(1名)、環境ISO学生委員会(6名)
三重県 (6名)	総務部副部長(1名)、総務部人材政策室(3名)、環境森林部ごみゼロ推進室(1名)、環境森林部地球温暖化対策室(1名)

4-3 第三者コメント

三重県の環境報告書2010は、三重県が取り組んでいる環境政策に対する成果及び課題について客観的評価に基づき、分かりやすくまとめられています。

まず、ISO14001認証取得に伴う三重県庁の環境マネジメントシステム(EMS)の枠組み及び環境方針が掲載されており、次に、EMSに基づく平成21年度の実績と評価が記述されていますが、単に前年度との比較をするだけにとどまらず、年度目標との比較も行うことで、PDCAサイクルの継続的改善が見込める構成となっています。さらに、環境にやさしい三重県庁をめざした全庁的取組、環境コミュニケーションの四つのコンテンツで構成されています。

平成21年度の実績と評価においては、環境に有益な事業の事例紹介、環境工夫等、職員に対する環境教育、環境監査などが詳細に掲載されています。また、環境にやさしい三重県庁をめざした取組においては、地球温暖化防止への取組による二酸化炭素の約3%の削減実績、グリーン購入の推進、環境に配慮した公共事業、エコイベント、RDFの貯蔵槽爆発事故以降の安全性の確保からの社会的取組などが掲載されています。特に、過去の事故の教訓を活かした安全性の観点からの取組について、三重県の環境への基本姿勢の透明化や見える化がはっきりと分かるように記述されている点は高く評価できます。

最後に、本報告書のさらなる発展のために、二つほど改善点を挙げさせていただきます。その一つとして、県民に親しみを感じさせるための工夫として多様なキャラクターを使っておりますが、各キャラクターの紹介と該当する部分が一致するような工夫、二つ目として、三重県の表彰制度について受賞団体の紹介や受賞内容が掲載されれば、環境活動に関わる方々にとって大変参考になるよいテキストとなると思います。

三重県と三重大学は、平成17年度から環境報告書に関する第三者評価を相互に行うことで、より忠実な環境報告書づくりに励んでいます。行政と大学のパートナーシップにより、充実した環境報告書づくりの相乗効果が期待できることから、これからも継続的発展に期待します。



三重大学学長補佐(環境ISO担当)

朴 恵 淑